



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3460号 2017.1.14 発行

保育所に苦情回避「指南」…園庭は住宅と離し配置、行事予定を住民に周知

### 大阪府の手引に盛り込まれた 主なトラブル回避策

施設面	● 園庭を住宅がない方向に配置する
	● 子供の遊び場を分散する
	● 防音壁の設置
	● 住宅との敷地境界に植栽する
運営面	● 園庭のスピーカーを分散する
	● 音が出る時間帯を事前に地域に知らせる
	● 職員の呼び出しをトランシーバーで行う
	● 空調の室外機を屋上に設置する
	● 苦情対応の言葉遣いに注意する

読売新聞 2017年1月12日  
保育所や幼稚園の子供らが出す音や声への苦情が近隣から相次いでいることを受け、大阪府はトラブル回避のための手引書を初めて作成した。

実際の苦情事例をもとに、園庭を住宅側に配置しないことや、行事予定を住民らに事前周知する方法を紹介している。府によると、自治体がこうしたマニュアルを作るのは珍しいという。

府が昨年7月に行った全43市町村へのアンケート調査では、37自治体で2013～15年度の間、苦情やトラブルがあったと回答。その原因では、園児の声など「日常的な音」が最も多く、保護者の送迎時の路上駐車など「交通に関する事」、楽器の演奏など「イベント時の音」も目立った。

手引書（90ページ）では、50～60人の子供が園庭で遊んでいる場合、音の大きさは主要道路周辺に匹敵する70デシベル前後になるとし、「（施設に）反対する住民は特別な存在ではない」と、近隣に配慮するよう求めた。

施設面の対策では、園庭は道路や川などに近い場所か、窓が少ない住宅北側に配置することが効果的とした。子供は集団になると気持ちが高ぶって声が大きくなるとし、屋上にも園庭をつくるなど遊び場を分散させる方法や、市販の防音壁の性能も紹介している。

運営面では、住民らは音が出る時間帯がわかればストレスが減る可能性があるとして、年間の行事予定や1日のスケジュールなどを事前に伝えたり、職員の呼び出しをスピーカーの代わりにトランシーバーで行って音量を下げたりする方法も紹介した。

苦情があった場合、初期対応を間違えて大きなトラブルへと発展することがないように、きちんと聞き取ることが重要とし、「住宅の方が後からできた」といった反論は「NGワード」として控えるよう促している。

保育施設を巡っては、政府は「待機児童ゼロ」を掲げて受け皿作りを進めている。府は手引書を、府内の保育所や幼稚園など全2300施設に配布する。府幹部は「各施設の実情に応じて対策を進め、地域との円滑な関係を築いてほしい」と話している。

### 保育所に厳しい住民意識

厚生労働省の調査からは、保育所や幼稚園に対する厳しい住民意識も浮かび上がる。

同省が2015年3月に民間委託して行った「人口減少社会に関する意識調査」では、住宅地に立地する保育所の子供の声を「騒音」と受け止め、苦情を言ったり立地に反対したりする住民の立場に同感できるかを聞いたところ、「同感できる」と答えた人が「ある程度」（29・7％）と「とても」（5・4％）を合わせ、全体の3分の1を占めた。

一方で、保育所立地に理解を示す人の割合は、地域活動への参加頻度が多い人ほど高ま

る傾向も明らかになった。

#### 障害者視点で差別解消へ 富士で地域フォーラム

静岡新聞 2017年1月13日



障害者への差別解消に向け、討論も行われた地域フォーラム＝12日午後、富士市のロゼシアター

昨年4月に施行された障害者差別解消法への理解を深めてもらおうと、内閣府と県、富士市は12日、同市のロゼシアターで地域フォーラムを開いた。取り組み報告や討論を通し、誰もが安心して暮らせる社会づくりを訴えた。

全国15カ所で実施するフォーラムで、県内外の福祉事業関係者ら約300人が参加した。取り組み報告で県障害者支援局の高橋良武局長は、県議会2月定例会に提案予定の県障害者差別解消条例案の概要などを説明。地元事業所の富士急静岡バスと自立生活センター富士は合同でバリアフリー講習会を行った実践例を紹介した。

3氏が登壇した討論では、富士聴覚障害者協会の鈴木礼子女性部長が「見ず知らずの人から無視されたと勘違いされ、いきなり怒鳴られた」と体験談を披露した。同市のサポートセンター「ほっと」の田尻ゆき相談支援専門員は「障害者も両親を亡くした直後や子育て中など、一人一人環境が異なる。相手の視点に立った助言が重要」と訴えた。

千葉県茂原市の中核地域生活支援センター「長生ひなた」の渋沢茂所長は障害者差別解消法の趣旨を「単純に言えば『自分がやられたら嫌なことは、相手にもやらない』ということ」と指摘。障害者に対する一層の理解を求めた。

#### 山本担当相が講演 地方創生の成功事例など紹介

大阪日日新聞 2017年1月13日

2017年度政府予算案の決定を受けて、内閣官房と内閣府は大阪市内で12日、今後の地方創生をテーマにセミナーを開催した。近畿地方の市区町村トップを中心に約300人が参加。山本幸三地方創生担当相が地方創生のポイントや成功事例を紹介し「稼ぐため



には確かな証拠に基づく政策立案が重要」と呼び掛けた。視察の経験から地方創生の成功事例を紹介する山本地方創生担当相＝12日、大阪市北区のホテル

山本氏は地方創生について「地方の平均所得を上げること」と定義し、「自助の精神で稼ぐ」取り組みが重要と強調。「勘と経験ではだめ。証拠に基づいてやらないといけない」として、地域経済分析システム「RESAS（リーサス）」の活用を呼び掛けた。

リーサスは人口増減や各地域の主要産業の指標、地域間の取引状況など、地方創生に関する官民のデータを一元的に活用できるシステム。

成功事例としては、ICT（情報通信技術）を活用したノウハウ・コストの社員全員での共有化や、規格外野菜の加工で高齢者や障害者の雇用創出を実現した農業法人、有限会社新福青果（宮崎県都城市）の事例などを紹介した。

#### A子、S子、Y子からY子の娘にバトン 匿名寄付60年、善意リレー【長崎県】

西日本新聞 2017年01月13日

1956年から約60年間、県警に毎年匿名の寄付が続いている。当初の送り主は「A子、S子」の2女性。その後、仲のいい「Y子」も加わり、今は「Y子の娘」が引き継ぐ。県警や県の職員は「感謝してもしきれない」と話す。

#### 匿名女性からの寄付を県障害福祉課の柴田昌造課長（左）に寄託する県警職員



寄付は56年3月に「気の毒なお友達にあげてください。A子・S子 17歳」という手紙とともに、300円が届いたのが始まり。Y子さんが加わり、72年にY子さんが亡くなっても、3人の連名で寄付は続いた。

2004年からはY子さんの娘が母の遺志を継ぎ、これまでに計12万円を寄せた。06年2月にA子さんとS子さんが50年の節目で「卒業」してからも、Y子さんの娘が一人で、母とその友人の思いを紡いで

きた。

県警は、県が障害者支援のため創設した「愛の福祉基金」に寄付金を73年から寄託し、合計金額は138万1200円に上る。

県警に昨年7月と12月、Y子さんの娘から手紙と5千円ずつが寄せられ、手紙には「インフルエンザ、ノロウイルスとはやっていますのでご自愛ください」と警察官を気遣う言葉が並んでいたという。

県警広報相談課の草野和幸課長は「浄財は基金を通じて、社会のために役立てられます」と笑顔を浮かべる。

県警の女性職員から寄付金を手渡された県障害福祉課の柴田昌造課長も「継続していただいて、心から感謝しています」と頭を下げた。寄付金は基金に積み立てられ、障害者のスポーツ振興や点訳に必要な機器の購入に充てられる。

#### 色鉛筆で心の風景描く、はじめさん初個展 来月5日まで秋田魁新報 2017年1月12日



#### 数百本の色鉛筆を使って絵を描くはじめさん

はじめ」という名で創作活動している精神疾患の男性（58）の色鉛筆画を集めた展覧会「色えんぴつのはじめさん」が、秋田市八橋南の秋田公立美術大ギャラリー（秋田ケーブルテレビ内）で開かれている。色鉛筆の質感を生かした柔らかなタッチで、物語性を感じさせる独特の世界が広がる。来月5日まで。

はじめさんは能代市出身。2001年に通信講座で色鉛筆画を学び、創作を始めた。現在は自宅のほか、精神障害者の就労支援施設「ごろりんはうす」（秋田市川元山下町）に通いながら描いている。

はじめさんの描く絵には、子どもや動物、風景が登場する。「子どもの頃に経験したことや目にした映像で忘れられないシーン」だと、はじめさんは言う。創作の過程は「まずインスピレーションがきて、それから誰かに指示されて（手が）動いている感じ」。記憶の中の光景と直感が入り交じっている。

## 熊本の保育園児に手作り防災頭巾 神戸のNPO、東北と協力し計画

産経新聞 2017年1月13日

阪神大震災や東日本大震災の被災者支援に取り組む神戸市東灘区のNPO法人「よろず相談室」が、東北の被災者らの協力を得て、熊本地震に見舞われた熊本県の保育園児に手作りの防災頭巾を贈る計画を進めている。

熊本地震後、園児らが再び地震が来ないか不安がっていると関係者から聞いたのがきっかけ。普段は座布団としても使える頭巾計約1500個を2月以降、阿蘇市や南小国町などの保育園約20カ所に順次届ける。

よろず相談室の牧秀一理事長（66）は神戸市の定時制高校の元教諭で、阪神大震災で障害を負った人の居場所づくりなどに取り組む。東日本大震災後は宮城県気仙沼市や福島県いわき市での支援活動にも取り組んだ。

今回の計画には、気仙沼市の災害公営住宅に住む高齢の女性らが「今度は自分たちが恩返しをする番」と縫い手として参加を申し出た。

牧さんは「熊本の子供に1人じゃないよと伝えたい」と語り、全国から寄付や、布や綿の提供も募っている。問い合わせはよろず相談室（電）078・843・6051。または牧さんのメール（makiyan167@gmail.com）

## 世界の失業者、340万人増え2億人突破へ ワーキングプア問題も深刻化

共同通信 2017年1月13日

国際労働機関（ILO）は12日、中国、ブラジルなどの新興国で景気減速により失業が増加傾向にあり、2017年には世界全体で失業者が約340万人増加すると予測した報告書を公表した。

報告書は、途上国を中心に「(非正規雇用など)不安定な雇用形態が常態化しつつある」と指摘、ワーキングプア（働く貧困層）の問題も深刻化しているとした。

16年の世界の失業者数は推計1億9770万人で失業率は5・7%。17年の雇用は先進国で回復基調にあるものの新興国では悪化、失業者数は2億110万人に達し、失業率も5・8%と予想した。

また、新興国や途上国では、社会保障が十分に受けられない不安定な雇用形態が広がり、「新興国では労働者の2人に1人、途上国では5人のうち4人がそうした雇用形態とみられる」とした。

## 障害者雇用率最高2.11%

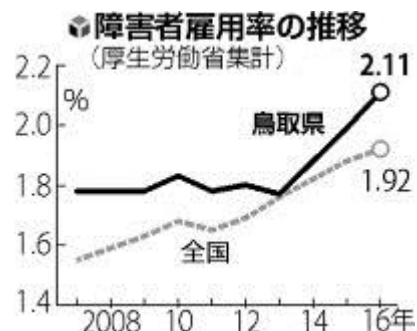
読売新聞 2017年01月13日 鳥取

◇県内民間企業 理解広がり

鳥取労働局は、県内の民間企業の障害者雇用率（昨年6月1日現在）が2.11%となり、過去最高を更新したと発表した。企業に義務づけられた法定雇用率（2.0%）を達成した企業の割合も59.1%と全国平均を10.3ポイント上回り、障害者雇用に対する県内企業の意識の高さをうかがわせた。一方、採用後に早期離職するケースも目につくといい、支援の強化を求める声も聞かれる。（古賀愛子）

同労働局が県内に本社を置く従業員50人以上の423社を対象に、雇用している身体、知的、精神障害者の数を調査した。

その結果、企業に雇用されている障害者数は前年より84人多い1271人で、雇用率は全国平均の1.92%を上回った。法定雇用率を達成した企業は前年比4.3ポイント



増となるなど、積極的な採用姿勢がみられた。

障害者の就労意欲も高まっている。同労働局によると、2015年度の新規求職申し込み件数は1021件（14年度比12・4%増）、就職件数は597件（同8・2%増）とともに過去最高。約10年間で2倍以上になった。

同労働局は、障害者雇用を理解のある企業が増えたことに加え、「職場適応援助者（ジョブコーチ）」を雇用率上昇の要因に挙げる。ジョブコーチは一定の研修を受けた専門員で、企業からの要請などに応じて入社から間もない障害者の悩みや相談に応じたり、企業側に指導法を助言したりする。

現在、身体、知的障害者計約20人を雇用する鳥取銀行の長戸奈緒子調査役は、「障害の特性に合った職種を教えてもらうことで、『適材適所』を実践できるようになり、労使双方のストレスを軽減できている」と評価する。

ただ、全国的に就労後、周囲に溶け込めずに孤立したり、意思疎通が十分にできずに悩みを抱えたりして早期離職するケースも目立つという。「『障害者に就労は無理』といった偏見も根強い」との指摘もある。

同労働局では来年度から、社内研修で障害者雇用に関する環境整備などについて学んだ人を「仕事サポーター」に認定する制度を始める方針。君野雄・地方障害者雇用担当官は、「企業との連携を密にし、障害者が職場に定着できるよう障壁を取り除いていきたい」としている。

#### 島田の施設入所者暴行 元職員に懲役8月求刑 静岡新聞 2017年1月12日

島田市の障害者支援施設で入所者に暴力を振るったとして、暴行の罪に問われた同施設の前職員の男（57）＝焼津市すみれ台＝の初公判が12日、静岡地裁（川畑薫裁判官）で開かれ、被告は起訴内容を全面的に認めた。即日結審し、検察側は懲役8月を求刑した。

冒頭陳述で検察側は犯行の状況について、「言葉を話せない被害者のトイレを介助する際、小便器の前に立った状態で大便をしたことに腹を立てて暴力を振るった。同僚が目撃し、発覚した」と指摘した。

被告は被告人質問で「大勢のトイレ介助、朝食の準備などが立て込む中で、思い通りにいかずいららしてしまった」と説明。「ほかの人にも乱暴な介助をしたことが数回ある。守るべき入所者に暴力を振るい、人の道を外れたことをした」と謝罪した。

起訴状によると、被告は昨年7月15日午前5時50分ごろ、同施設のトイレで重度心身障害のある男性入所者＝当時（55）＝に対し、両腕をつかんで便座に押し倒した上、頭や腹をたたき暴行を加えたとされる。被告は事件後に施設を退職した。

#### 相次ぐ特殊詐欺や児童虐待事件を受けて、大阪府警署長会議

MBS ニュース 2017年1月13日

大阪府警では警察署長らが集まり去年、過去最悪の被害だった特殊詐欺事件などの対策が話し合われました。

府内65の警察署長など約200人が集まった会議では特殊詐欺対策や児童虐待女性を狙った性犯罪対策などが話し合われました。

「子どもや女性が深刻な被害を受けたり、高齢者を狙った特殊詐欺事件が急増している。府民の安全を確保するとともに、安心感を高めていかなければなりません」（大阪府警：村田隆本部長）

特に特殊詐欺被害は去年1年間で約1,600件被害額51億円を超えるなど過去最悪を更新したことから「大阪重点犯罪」とし警戒を強めています。また、東大阪市の銀行では詐欺にあった高齢女性が窓口で現金を引き出しにきた設定で特殊詐欺防止訓練が行われました。

### 手作りの福祉器具を寄贈

堀之内校長（右）に、自作器具の説明をする長崎工業高の生徒＝長崎特別支援学校

長崎市岩屋町の県立長崎工業高（三好展弘校長）の生徒4人が12日、同市桜木町の県立長崎特別支援学校（堀之内穂瑞美（ほずみ）校長）に、自分たちが開発した手作りの福祉器具3点を寄贈した。



同支援学校には、脳性まひなどで身体が不自由な児童生徒計50人が在籍。手足の動きを高める学習などに取り組んでいる。器具が子どもたちに行き渡らないことから、開発を依頼していた。

寄贈品は▽ボールを入れると音楽が流れ、おもちゃが動くことで、楽しみながら手の運動ができるサウンドスイッチ▽揺り籠状の台に乗ることで体幹が鍛えられるバランスボード▽車いすに据え付け菓を飲めるフレキシブルアーム。同工業高情報技術科3年の松尾昌往さん（18）、川添美夕（みゆ）さん（18）、伊藤鼓音（こと）さん（18）、田崎龍之介さん（18）が課題研究の一環で昨年7月から取り組んでいた。

4人が同日、同支援学校を訪れ、学校関係者に使い方や、工夫した点をそれぞれ解説。軽量化したバランスボードを開発した田崎さんは、強度が高くて軽い断熱材を使った点を紹介「持ち運びも軽くなります」と話した。バランスボードはメーカーが生産中止し、同支援学校には1個しか備品がなかったという。出席した教員ら約40人は拍手で労をねぎらった。

堀之内校長は「備品は1個数万円するものもある。購入費に限られる中、ありがたい。大切に使いたい」と話した。

### 蕎麦で地域貢献 年間700キロ製粉し500万円売り上げ（岩手）



福祉新聞 2017年01月13日 編集部  
高校などの昼食用にどんぶり入りそばを作る

岩手県一関市の社会福祉法人室蓬会の障がい者福祉サービス事業所「室蓬館」（金野育朗施設長）

は、そばの製粉・販売や、高校・専門学校などでのパン・軽食の出



張販売活動などを通じ、地域に貢献。中山間地の人々の食を支えている。

就労継続支援B型事業（定員44人）と生活介護事業（16人）を行う室蓬館は、同市大東町にあった二つの作業所を統合する形で2002年に開所した。

利用者が玄そばの石抜き作業をする

そばの製粉作業は、高齢化で閉店する製粉所が増え、地域の農家が困っている姿を見て「競合する作物を作るより地域のためになる」と考え、09年から始めた。毎年30軒を超える農家から依頼がある。

製粉技術を生かして製造・販売しているのが、地元の「水かけ祭」から名前をもらった「水かけそば」だ。

製麺は高度な技術が必要なため、市内の加工業者に依頼。初めは生麺を販売していたが、日持ちしないため、今は年末の年越しそば用と2月11日の水かけ祭用を除き、そば粉4割・小麦粉6割の乾麺（1袋200g）にして販売している。

好評なのが、東日本大震災で被災した陸前高田市のしょうゆ会社・八木澤商店とのコラボ商品「みずかけそばつゆセット」（2500円）だ。

コラボは同商店の工場が同市に移設されたのを機に実現。乾麺6袋とつゆが入ったセットは贈答用として年々人気が出ており、同商店分だけで13年に1973箱、14年に2410箱、15年に3250箱が販売されるまでになった。

そばの製粉・販売は3人の利用者が担当。1人が製粉作業、1人が袋詰めされたそばに室蓬館で印刷した帯封を巻く作業、1人が箱詰め作業を担う。年間製粉する玄そばは700kgを超え、製粉・販売で500万円の売り上げがあるという。



#### そばとつゆのセットは好評

そばの製粉と同様、地域のために始めたのが、出張販売活動だ。

きっかけは06年に地元の高校から「室蓬館で製造しているパンを高校生の昼食用に校内で販売してほしい」と要請されたことだった。パン屋が1軒もない中山間地域の大東町の学校や企業にとって、身近な場所で、おいしい昼食を確保することは大きな悩みだった。

「高校生にちゃんと昼食をとってほしい」と思った室蓬館は快諾。その後、専門学校や市役所支所、地元企業などから依頼が相次ぎ、高齢者が病院帰りなどに利用するショッピングモールのフードコートからも出店を要請された。

販売先が増えるのにつれ、メニューも充実させた。ハンバーガーやクレープなど高校生が喜ぶものを作ったり、スパゲティやラーメンなどお腹にたまるものも用意したりした。値段は小遣いの少ない高校生でも買えるように50円～250円に設定している。

贈答用そばの売り上げなどが伸びたこともあり、室蓬館の利用者の平均工賃は月額2万7000円と、全国平均を上回る。

「そばは一ノ関産、水は地元の銘酒『酔仙』の仕込み水を使うなどこだわって作っている。だからこそ地元の人が昼食で食べてくれたり、贈答用に使ってくれたりする」と話す金野施設長。

地元のために尽くす室蓬館の存在は、地域住民にとって欠かせないものになっているようだ。

#### 障害者殺傷事件 職員縛りけがさせた疑いで追送検 NHK ニュース 2017年1月13日

去年7月、相模原市の知的障害者施設で46人が殺傷された事件で、警察は、入所者19人を殺害したとして逮捕された26歳の元職員が、複数の職員を結束バンドで動けなくさせ、けがをさせたなどとして、13日、追送検しました。

この事件は、去年7月26日の未明、相模原市緑区の知的障害者の入所施設「津久井やまゆり園」で入所者が次々に刃物で刺され、19人が死亡、27人が重軽傷を負ったもので、施設の元職員、植松聖容疑者（26）が入所者19人を殺害したとして逮捕され、現在、専門家による精神鑑定が行われています。

その後の調べで、植松容疑者は、ほかにも、当時54歳から23歳までの職員5人に対し刃物を持って「騒いだら殺す」と脅したうえ、結束バンドで手などを縛って動けなくし

て、一部の職員にけがをさせた疑いがあるなどとして、警察は13日、追送検しました。

調べに対し、容疑を認めているということです。

植松容疑者は、入所者24人にも刃物で重軽傷を負わせたとして、殺人未遂の疑いで先月、追送検されていて、調べに対し、「障害者は不幸を作ることしかできない」などと供述しているということです。

警察はこうした考えを持つに至った詳しいいきさつを調べています。

### この数日に聞いた三つのスピーチ…

西日本新聞 2017年01月13日

この数日に聞いた三つのスピーチ。二つは知性と品格にあふれ、理想や倫理観にうなずけた。もう一つは、やっぱり…▼「軽蔑は軽蔑を呼び、暴力は暴力を生む」。穏やかに語った米国の女優メルル・ストリープさん。トランプ次期大統領が障害のある記者の物まねをしたとして「胸が張り裂けそうだ」と嘆いた▼「権力ある者が立場を利用して他人をいじめれば、私たち全員が敗者となる」「信念を持ったメディアが権力者の目に余る行動を逐一追及する必要がある」とも。当たり前の言葉が胸に響く米国の現状だ▼この人は「失意の賢者」か。20日退任するオバマ大統領。「核なき世界」を掲げ広島に歴史的な足跡を刻んだ。貧しい人のための医療保険制度改革や人種差別撤廃に尽力した「和解」の人だった▼その保険制度をトランプ氏は廃止するという。理想へ道半ばのオバマ氏はさぞ無念だろう。思いを込めた最後の演説。「民主主義は当然あるものと見なせば、必ずその存在が危うくなる」。これも歴史に残りそうな警句だ▼そして次期大統領の記者会見。相変わらず言いたいことだけをまくしたてた。大国の指導者にふさわしい品格はどこに。いいお手本がある。トランプ氏が「最も過大評価された女優」とこき下ろしたストリープさん主演の映画「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」で学んでは。強硬な政治手法だけは、まねる必要もないが。

### 高齢者の定義

佐賀新聞 2017年01月13日

<十といふところに段のある如(ごと)き錯覚持ちて九十一となる>。アララギ派の歌人、土屋文明(つちやぶんめい)の一首である。1990年に100歳で亡くなったが、この歌はその10年ほど前のもの◆なぜ人は10年単位で年をとったという実感を持つのか。それはまさに錯覚である。されど、「どこかで特別な時間と意識することで、生きることには人はめりはりをつけている」とは歌人、永田和宏さんの見方である◆高齢者の定義について議論が起きている。日本老年学会などが、高齢者を従来の「65歳以上」から「75歳以上」に引き上げるべきだと提言した。確かに生涯現役が時代の流れだが、どこぞに年金支給年齢の引き上げなど、社会保障費を削ろうとの魂胆がありはしないかと考えるのは、うがち過ぎか◆高齢者とは気の持ちよう。「今日から高齢者ですよ」と言われてなるものではないし、「高齢者じゃない」と言われシャキッとされるわけでもない。人生のスケジュールはそれぞれである◆「還暦 60歳でお迎えが来たら『只今(ただいま)、留守』と言え」「古希 70歳でお迎えが来たら『まだまだ早い』と言え」「喜寿 77歳でお迎えが来たら『急ぐな老楽(おいらく)はこれから』と言え」…。どこかの介護施設で見た言葉だ。年齢ばかりを気にせず、いくつまで生きるかではなく、どう生きるかが肝心ということだろうか。(章)

